

simc News Letter

Sendai International Music Competition

2024年8月20日号

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第8回仙台国際音楽コンクールピアノ部門第2位 ヨナス・アウミラー出演
市制施行135周年記念コンサート 演奏評

正木 裕美(音楽ジャーナリスト)



市制施行 135 周年記念コンサート

日時：2024年7月1日(月) 14:00開演

会場：仙台銀行ホール イズミティ 21 大ホール

指揮：出口大地

管弦楽：仙台フィルハーモニー管弦楽団

ピアノ：ヨナス・アウミラー

曲目：モーツァルト／歌劇「フィガロの結婚」K492 序曲

ショパン／ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 op.11

ブラームス／交響曲第1番 ハ短調 op.68

第8回仙台国際音楽コンクール・ピアノ部門ファイナルで見事なブラームスの協奏曲第1番を披露して第2位となったヨナス・アウミラーが、仙台市の市制施行135周年記念コンサートで再び仙台フィルハーモニー管弦楽団と協演した。曲目はショパンの協奏曲第1番。同じロマン派ながらブラームスのそれとはリズムも響きも作風も異なり、同じ弾き手で聴き比べるには一段と興味深い。

コンクールにおけるアウミラーのブラームスは専門家の間でも絶賛する声が多く、音の芯を捉えた華やかさから重厚さに至る多彩な音色は、他のどの出場者にも引け目を取らず、オーケストラと対等に響き合っていた。加えてアンサンブル力に長け、常にオーケストラと一体となって作り上げるその音楽は、ソリストとオーケストラという枠組みを超え、さながら交響曲を連想させるほど。前年にデトモルトのブラームス・コンクールで優勝したのも頷けると、誰もが納得するブラームスだった。

そのアウミラーが挑んだ今回のショパンの協奏曲第1番。オーケストラの主題の提示に導かれて、通常力強く壮麗に奏でられるピアノの出だしは、一音目からその想像を覆すものだった。まるで慈しむように序章を告げるような語り口で、そこには煌びやかな響きを誇示する意図は感じられない。彼にとってショパンのこの作品が、「慈しみと親密さ」に満ちた作品であると、聴き手に告げるようだ。そして豊かな情感とともに紡がれる最初のテーマは、消え入りそうである音の粒立ちは失われず、響きが天井へ立ち昇る。その後のどんな走駆するパッセージも華やかさに任せて弾き捨てるようなことはせず、一音一音の意味やハーモニー＝色彩の移り変わりを一貫して意識していたのは、いかにもアウミラーらしいと思う。

もうひとつ、やはりアウミラーが重視していたのが、オーケストラとの親密なアンサンブルだった。それは第2楽章で特に顕著で、ソロでピアノと掛け合う機会の多いホルンやファゴットの旋律はもちろんのこと、内声部でハーモニーを作る弦の動きを引き立たせるように、時に最小限に音量を絞ることもあった。それにより、これまで楽譜上では見えていた響きや旋律の動きが明確に音として浮き彫りになり、小規模で親密なアンサンブルの意味合いが色濃く表出。こうしたアウミラーの趣向に沿うように、仙台フィルはリハーサルを経て10型だったオーケストラを8型に変更している。

実は、オーケストラとの響きを重視し、敢えてピアノ以外のパッセージを際立たせるこうした手法は、コンクールのファイナルにおける2曲のうちもう1曲、ベートーヴェンの協奏曲第3番でも顕著に見られた。ソリストとオーケストラ、という気構えは脇へ置き、オーケストラのソロや対旋律の動きを前面に出す——それは一般にあるべき演奏に迎合せずに自身の信念を貫くという、アウミラーの明確な意思表示だったように思う。

続く第3楽章では、アーティキュレーション（音の繋ぎ方や切り方による表情づけ）の変化を特徴づけるように、ペダルを巧みに細かく踏み分け、もしくは時にほとんど使用せずにオーケストラとの緊密な絡み合いを披露した。それだけに、会場の携帯電話のコール音によりその緊密さが途切れてしまったのは残念だったが、それだけ、オーケストラとのアンサンブルに心を砕いていたことの証左でもあるだろう。

アウミラーはプロフィールで「19、20世紀のピアニストの流儀の熱狂的称賛者」と自負している。その流儀とは、この頃のピアニストたちが演奏家のみならず作曲家や編曲家も兼ね、自身の音楽観の表出や、時にはあまり演奏されない作品の蘇演を編曲により行っていたことを意味しているそうだ。実際それに倣うように、自身の編曲によるリストの交響詩「オルフェウス」のピアノ版や自作品「優しさ(La tenerezza)」などを、来日時のリサイタルでも披露している。こうした強い信念に基づく活動に裏打ちされ、模倣的演奏に頼らずに自身の音楽観を投じる透徹ぶりが、今回のショパンでも顕（あら）わだった。



第9回仙台国際音楽コンクール出場申込受付を開始しました！

2024年7月10日(水)より、第9回仙台国際音楽コンクール出場受付を開始しました。1995年1月1日以降に出生した全世界の音楽家が対象です。申込締切は2024年10月23日(水)。その後、予備審査を経て、2025年2月12日(水)までに各部門概ね36名の出場者が決定します。コンクール開催概要および申込方法は仙台国際音楽コンクール公式サイトからご覧いただけます。



仙台国際音楽コンクール関連事業

堀米ゆず子イザイ&J.S.バッハと語るヴァイオリンの神髄



©Samon

イザイ、J.S.バッハの作品を演奏するほか、ヴァイオリンの構造、歴史から仙台国際音楽コンクールや課題曲のお話まで、聴きどころ満載のトークコンサートです。

日時：2024年11月2日(土) 14:00開演

会場：日立システムズホール仙台 シアターホール

曲目：イザイ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第5番 ト長調 op.27-5 より

J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第2番 二短調 BWV1004

入場方法：事前申込制（無料・往復はがきまたはwebフォームからお申込ください。）

※申込者多数の場合は抽選となります。

※詳細は仙台国際音楽コンクール公式サイトをご覧ください。

第9回仙台国際音楽コンクール開催記念コンサートを開催します。



©kisekimichiko



2025年5月24日に開幕する「第9回仙台国際音楽コンクール」の開催を記念し、第8回優勝者である中野りな、ルウオ・ジャチンがコンクールの特色である協奏曲をお届けします。世界が注目する2人による演奏で、一足先にコンクールの熱気と興奮をお楽しみください。

日時：2025年2月15日(土) 14:00開演

会場：日立システムズホール仙台 コンサートホール

曲目：ブラームス：ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.77

ブラームス：ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 op.83

出演：ヴァイオリン：中野りな

ピアノ：ルウオ・ジャチン

指揮：広上 淳一

管弦楽：仙台フィルハーモニー管弦楽団

発売日：2024年9月12日(木)

料金：S席4,500円(市民文化事業団友の会料金 4,000円)

A席3,500円(市民文化事業団友の会料金 3,000円)

U-25：1,500円(公演当日25歳以下)

※全席指定・税込



コンクール公式サイト